

らち

ちな

拉致問題に因んで

平成十四年十一月一日(金)

愛知県大府市明成町一丁目一七五番地

TEL 〇五六二 四四 〇七〇八

とつかくぼつしゅだいでんどつし

三代目東核芒種大伝道師

加古藤市

昭和二十年(一九四五)八月十五日以前に、日本国がした事に対するお詫びと賠償は、韓国にはキチンと済ませ、中国とは故田中角栄首相の本に、賠償金としては払わなかったけれど、経済援助をする事で三十年前に平和条約が締結されました。

その時に韓国・中国と同じ立場にある北朝鮮国だけには、何故が故に今日まで放置されて来たのでありましょうか・・・？ 其れが故に日本の国に請求ゆさぶりが賭けられたのが拉致・不審船問題ではなかったでしようか・・・？ 其の証が拉致された人達の、其の後の二十四年間の待遇経過に、其れを証明されて居るのでは無いでしょうか・・・？
そうであるとするならば、其の事を放置して来た事が極東の平和を遠ざけて仕舞った最大の原因では無いでしょうか・・・？

その最大なる原因を放置して、アメリカに追従して来た事が、同じアジアの隣国である北朝鮮を孤立化させてしまい、核武装までさせて仕舞ったは日本

国の不覚ふかくにて、特にアメリカは自国の神「聖書」に誓い、其の精神せいしんを日本国に運び、運んだ国の責任に置いて、日本国の安全を保障をするを名目に、東南アジア極東への覇権はけんを目的に、北朝鮮を悪の中ちゅう枢と決め付けて、軍備の拡大をしたとするならば、北朝鮮国だけではなく、ロシアを含む極東の国々すべ全てが警戒して居るではないでしょうか・・・？

此の軍事緊張を北朝鮮国だけに押し当てて、担になわせたのでは、かつての日本国がアメリカ・イギリス・フランス等の連合国に経済封鎖をされ、終ついに、奇襲を以って真珠湾攻撃しんじゆわんこうげきをし、神風特攻隊かみかせとくこうたい・人間魚雷にんげんぎょらい・回天かいてんを出撃させてでも、国の誇りほを守らんとした様に、北朝鮮国を核戦争に踏み切らせたのでは、我が日本国が何の為に広島・長崎に原爆投下の憂うき目に合い、昭和天皇が二度と戦争をしない誓いを神に立て、戦争終結の詔勅みことたまはかりを下し置かれたかが解わからなくなってしまうのです。

其れが故に、神が停戦と同時に日本国を憲法第九条の聖国せいこくとされ賜たまいた為に、真まことの敗戦国の憂うき目を知らずに成長し続けて来た日本国が、憲法第九条のもとで、世界三位とも二位とも言われる程の軍備大国に成っている事を、日本国に御祀りされて居る天津神あまつしん力氣りき・国津神くにつしん力氣りきが十字に交わり合われている神祇の神が、お赦ゆるしに成るで在りましようか・・・？

既に昭和天皇が御崩御遊ばされて十三年、我が国の政治経済、民意までが落ち続けて居るでは有りませんか・・・？ 広島・長崎に投下された原爆は今にして見れば小さい物でありましたが、核弾道ミサイルに付けられている核はどれ程でありましようか・・・？ その爆裂は桁外れに大きいのでは無いでしょうか・・・？ それに加えて我が国には、五十二基もの原子力発電所があり、其処そこで使用されるプルトニウム核燃料が何処どこにどれ程貯蔵されているので有りましようか・・・？

其の事を想う時に、絶対に戦争をしてはならず、特に核戦争にさせては成らぬのが日本国の立場で御座居ます。それ故この度の日朝会談なのです。

其の事を忘れての会談は、再び我が日本国が神の洗礼を受けなければ成らぬ

と仰せで御座居ます。

この度の日朝会談は伊勢生成の神、（雄蕊と雌蕊、雄と雌、男と女の伊勢の生命生産出しの天照皇大御神）が、憲法第九条を有する日本国に、最後に神が仕組み下さったこの好機を生かし、日米韓ではなく、日朝韓の三国で改めて和を語り合い平和を求めなければ成らぬと仰せでございます。

合 掌

靖国神社参拝問題に付いて

省みれば徳川幕府に開国を迫った、西洋の自由資本主義社会国家、アメリカ・イギリス・フランス等の国々は、日本国を植民地にするよりも、独立国として、朝鮮半島大陸に進出させて、極東ロシアと対立させ、共産主義の進出を食い止める、と、共に 武器の自由商人（フリーメイソン）に武器を売らせ儲けさせ、自由資本主義国の国益にする、一石二鳥の妙案として、明治

政府に「今の内に、朝鮮半島を何とかして置かなければ後々が大変な事になります。」と、言葉巧みに呼び掛られたのでした。明治政府はその 謀にまんまと乗せられた用人ばかりでありましたが、その中で、西郷隆盛一人だけがその 謀には乗らず、冷え切っている庶民の救済が先であると主張したなれど通らず、明治政府と袂を分かち、自ら参議を辞して故郷に帰ったのが明治六年の事でした。

そのために、フリーメイソンの国からも、明治政府からも嫌われ阻害され、メイソンの国から大量に輸入した新兵器を以って、西南戦争で葬り捨てられたのでございました。

その西南戦争を皮切りにして、明治政府はフリーメイソンの言いなりになり、武器を使用する為にメイソンの代理戦争を、十年毎に繰り返した戦争の事を侵略戦争とも言われています。

今、改めて西郷隆盛の政界を引退した明治六年より、昭和二十年八月十五日までの歳月を数え見れば、七十二年程も大陸を無視して来たこととなるの

です。

この七十二年の歳月を支配して来た日本国の権力主義者・帝国主義者・軍国主義者の靈魂たましいの象徴が靖国神社であります。その靖国神社に現在の日本国の総理が参拝したのでは、その被害国である中国や朝鮮の人々人民にしては、日本国の総理の参拝を許す事ができないのです。やられた国の立場に日本の国の日本人が立つ事が出来るならば、靖国問題は直ぐ解決出来るでありましよう……。もしも理解・解決が出来なければ日本の国には平和も未来もなく、世界から日本の国は見放される刻ときが来るでありましよう。

今の日本国の有り様は、一度憲法第九条に不戦を誓い、全世界に発信した憲法第九条を改正して、戦争の出来る国になったのでは、大正腑だいじょうぶ・生産せいさんの神かみ（熱田神宮の神）が、全人類が、日本国を認める事が出来ないのです。

その証が、崩御あそばされた昭和天皇の大喪の礼に、世界の二六三カ国の代表使節の御靈魂たましいを集くわせになり、世界恒久平和外交をしたのでございます。

日本の国が、憲法第九条の改正を唱となえ、国連常任理事国に立候補した時、世界のどの国が日本を認めたでありましようか……？

美しい国どころではなく、汚けがらしい国となってしまうのでございます。

芽めも花はなも 野辺のの若草わかしら 萌もえるらん

美つましいこの国 戦いくさせぬ国

合掌

平成十八年十月九日